



Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイスメール サーバに関連したポートは、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用せずに、Cisco Unified Communications Manager データベースに追加したり、削除したりすることができます。ここでは、次の手順について説明します。

- 「[Cisco ボイスメール ポートの設定値](#)」 (P.82-1)
- 「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」 (P.82-6)
- 「[Cisco ボイスメール ポートの設定](#)」 (P.82-7)
- 「[Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化](#)」 (P.82-8)
- 「[Cisco ボイスメール ポートの削除](#)」 (P.82-9)

Cisco ボイスメール ポートの設定値

オプションのソフトウェアである Cisco Unity または Cisco Unity Connection は、シスコ ユニファイド コミュニケーション ソリューションの一環として利用され、ユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。Cisco Unity Connection はユーザがコールに応答できないときに、ボイス メッセージ機能を提供します。この章では Cisco ボイスメール ポートを追加、設定、更新、および削除する手順について説明します。この手順は Cisco Unified Communications Manager の管理 ページの [ボイスメール (Voice Mail)] メニューから、[Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] を選択することによって実行できます。

Cisco Unity を設定する方法については、該当する『*Cisco Unified Communications Manager Integration Guide for Cisco Unity*』を参照してください。

ボイス メッセージと Cisco Unified Communications Manager との接続性の詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager システム ガイド*』の「[Cisco Unified Communications Manager へのボイスメールの接続性](#)」を参照してください。

表 82-1 では、Cisco ボイスメール ポートの設定値について説明します。関連する手順の詳細については、「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[ポート名 (Port Name)]	<p>Cisco ボイスメール ポートを識別する名前を入力します。Cisco ボイスメッセージシステム上でポートごとにデバイスを追加する必要があります。24 個のポートがある場合は、24 個のデバイスを定義する必要があります。</p> <p>[ポート名 (Port Name)] フィールドには 1 ~ 15 文字 (文字、数字、ピリオド、アンダースコア、ダッシュを含む) を入力できます。ただし、「-VI<ポート番号>」で終了する必要があります。</p> <p>(注) Cisco Unity では、この名前が CiscoUM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Unity Telephony Integration Manager (UTIM) の名前と一致する必要があります。Cisco Unity Connection では、この名前が Cisco UM-VI1 または Cisco UM-VI2 などの Cisco Unity Connection の管理と一致する必要があります。</p>
[説明 (Description)]	デバイスの目的を明確にした説明を入力します。
[デバイスプール (Device Pool)]	デフォルト値または特定のデバイスプールを選択します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このデバイスを割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。詳細については、「共通デバイス設定」(P.103-1) を参照してください。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、このデバイスからコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。登録者の番号およびネットワーク デバイスへのコールを可能にするコーリング サーチ スペースの名前を選択します。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズ パラメータを使用して、このドロップダウン リスト ボックスで表示するコーリング サーチ スペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズ パラメータで指定した数よりも多くのコーリング サーチ スペースが存在する場合、ドロップダウン リスト ボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリング サーチ スペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリング サーチ スペースの検索条件のフィールドで、検索条件を選択し、コーリング サーチ スペース名の一部を入力します。表示されたコーリング サーチ スペースのリストで、指定したいコーリング サーチ スペースの横にあるチェックボックスをオンにし、[選択項目の追加 (Add Selected)] をクリックします。</p> <p>(注) リスト ボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>Automated Alternate Routing (AAR; 自動代替ルーティング) の実行時にデバイスが使用するコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足によってコールがブロックされないように、収集された (発信) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションの集合を指定します。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>ロケーションは、Call Admission Control (CAC; コール アドミッション制御) を中央集中型コール処理システムに実装する際に使用します。CAC では、ロケーション間のリンクを経由する際にオーディオコールとビデオ コールで使用できる帯域幅を制限することにより、オーディオ品質とビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスで、このボイスメール ポートに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションに [Hub_None] を設定すると、そのロケーションの機能では、このボイスメール ポートが消費する帯域幅を把握しません。ロケーションに [Phantom] を設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP を使用するクラスタ間トランクをまたいで CAC を正常に実行できるロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションの順に選択します。</p> <p>ロケーションの詳細については、「ロケーションの設定 (P.18-1)」を参照してください。クラスタ間トランクをまたがるロケーションベースの CAC については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「クラスタ間トランクでのロケーションに基づくコール アドミッション制御」を参照してください。</p>

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、ボイスメール サーバ ポートに適用するセキュリティ モードを選択します。ここに表示されるオプションは、データベースであらかじめ定義されています。デフォルト値は [-- 選択されていません --] です。</p> <p>ボイスメール サーバのセキュリティを設定する方法については、『Cisco Unified Communications Manager セキュリティ ガイド』を参照してください。</p>
[信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントに対して Trusted Relay Point (TRP; 信頼できるリレー ポイント) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択すると、デバイスでは、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値が使用されます。 • [オフ (Off)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用不可になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 • [オン (On)] : この値を選択すると、このデバイスに対して TRP が使用可能になります。この設定値は、このデバイスに関連付けられた共通デバイス設定の [信頼できるリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] の設定値よりも優先されます。 <p>信頼できるリレー ポイント (TRP) デバイスには、Trusted Relay Point というラベルの付いた Media Termination Point (MTP; メディア ターミネーション ポイント) またはトランスコーダ デバイスが指定されます。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえば、トランスコーダや RSVP Agent) が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を配置します。</p> <p>エンドポイントに TRP と MTP の両方が必要な場合、TRP は必須の MTP として使用されます。コール動作の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unified Communications Manager での TRP の挿入」を参照してください。</p> <p>エンドポイントに TRP と RSVP Agent の両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP としても使用可能な RSVP Agent を最初に検索します。</p> <p>エンドポイントに TRP とトランスコーダの両方が必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は、TRP にも指定されているトランスコーダを最初に検索します。</p> <p>ネットワーク パーチャライゼーションおよび信頼できるリレー ポイントの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「メディア リソースの管理」の章の「信頼済みリレーポイント」の項とそのサブトピックを参照してください。</p>

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[電話番号情報 (Directory Number Information)]	
[電話番号 (Directory Number)]	このボイスメール ポートに関連する番号を入力します。このフィールドと [パーティション (Partition)] フィールドとの組み合わせが、固有のものであることを確認してください。
[パーティション (Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを選択します。パーティションを使用しない場合は、[なし (None)]> を選択してください。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するパーティションの数を設定することができます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのパーティションが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[パーティションの検索と一覧表示 (Find and List Partitions)] ウィンドウを表示します。パーティション名を検索し、選択します ([パーティションの検索] (P.53-4) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)]> [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールされる番号を見つけるために検索されるパーティションの集合から構成されます。パーティションを選択する場合は、そのパーティションを含むコーリングサーチスペースを選択する必要があります。</p> <p>Max List Box Items エンタープライズパラメータを使用して、このドロップダウンリストボックスで表示するコーリングサーチスペースの数を設定できます。Max List Box Items エンタープライズパラメータで指定した数よりも多くのコーリングサーチスペースが存在する場合、ドロップダウンリストボックスの横に [検索 (Find)] ボタンが表示されます。[検索 (Find)] ボタンをクリックして、[コーリングサーチスペースの検索と一覧表示 (Find and List Calling Search Spaces)] ウィンドウを表示します。コーリングサーチスペース名を検索し、選択します ([コーリングサーチスペースの検索] (P.54-3) を参照)。</p> <p>(注) リストボックスの最大項目を設定するには、[システム (System)]> [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CCMAdmin Parameters] を選択します。</p>
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループは、帯域幅不足のためにコールがブロックされないように、コールをルーティングするためのプレフィックス番号を提供します。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを指定します。

表 82-1 Cisco ボイスメール ポートの設定値 (続き)

フィールド	説明
[内線発信者 ID 表示 (Internal Caller ID Display、ASCII 形式)]	この回線からコールが行われるときに、着信側電話機に表示されるテキストを ASCII 形式で指定します。
[外線番号マスク (External Number Mask)]	<p>外部（発信）コールに対して、発信者 ID 情報をフォーマットするのに使用するマスクを指定します。このマスクには、最長 50 文字までを指定できます。発信者 ID 情報に表示する数字列を入力します。デバイスの電話番号を表すには、X を使用します。</p> <p>国際的なエスケープ文字 + も入力することができます。</p> <p>自動代替ルーティング (AAR) が帯域幅不足のためにコールをルーティングする場合、余裕のある帯域幅を使用できなければ、Cisco Unified Communications Manager は、このフィールドの値を使用してコールを発信します。</p> <p>例</p> <p>DN 1000 (外部マスク 9728131000) は DN 1001 (外部マスク 2144131001) をコールします。帯域幅不足のためにコールがブロックされると、Cisco Unified Communications Manager は、AAR プレフィックス番号を 2144131001 と一緒に使用して 1001 にコールを発信します。</p>

Cisco ボイスメール ポートの検索

通常、ネットワーク内にはいくつかの Cisco ボイスメール ポートが存在します。Cisco Unified Communications Manager では、条件を指定して、特定の Cisco ボイスメール ポートを見つけることができます。Cisco ボイスメール ポートを見つける手順は、次のとおりです。



(注)

Cisco Unified Communications Manager の管理ページでは、ブラウザセッションでの作業中は、Cisco ボイスメール ポートの検索設定が保持されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻ってくる場合でも、検索に変更を加えたり、ブラウザを閉じたりしない限り、Cisco ボイスメール ポートの検索設定は保持されます。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- [ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。アクティブな (前回の) クエリーのレコードも、ウィンドウに表示されることがあります。
- ステップ 2** データベース内のすべてのレコードを検索するには、ダイアログボックスが空であることを確認し、「**ステップ 3**」に進んでください。
- レコードをフィルタリングまたは検索する手順は、次のとおりです。
- 最初のドロップダウン リスト ボックスから、検索パラメータを選択します。
 - 2 番目のドロップダウン リスト ボックスから、検索パターンを選択します。
 - 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。



(注) 検索条件を追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定したすべての条件に一致するレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックして最後に追加した条件を削除するか、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックして、追加したすべての検索条件を削除してください。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

一致するすべてのレコードが表示されます。[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスから別の値を選択して、各ページに表示する項目の数を変更できます。



(注) 該当するレコードの横にあるチェックボックスをオンにして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、複数のレコードをデータベースから削除できます。[すべてを選択 (Select All)] をクリックして [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、この選択対象として設定可能なすべてのレコードを削除できます。

ステップ 4 レコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。



(注) リストのヘッダーに上矢印または下矢印がある場合、その矢印をクリックして、ソート順序を逆にします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

追加情報

「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの設定

Cisco ボイス メッセージ システムを Cisco Unified Communications Manager に接続するには、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco ボイスメール ポートを追加する必要があります。



ヒント

新規 Cisco ボイスメール サーバとポートを追加したり、既存のサーバに複数のポートを追加するには、この項で説明されている手順のほかに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」(P.83-1) を参照してください。

個々の Cisco ボイスメール ポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する手順と、既存のボイスメール ポートを更新またはコピーする手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。

[ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの作業を行います。

- Cisco ボイスメール ポートとその設定をコピーするには、該当する Cisco ボイスメール ポートを見つけます（「Cisco ボイスメール ポートの検索」(P.82-6) を参照）。[検索結果 (Search Results)] リストから、コピーするボイスメール ポートに対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックし、「ステップ 3」に進みます。
- 新しいボイスメール ポートを追加するには、[新規追加 (Add New)] ボタンをクリックします。[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウが表示されます。「ステップ 3」に進みます。
- 既存の Cisco ボイスメール ポートを更新するには、該当するボイスメール ポートを見つけます（「Cisco ボイスメール ポートの検索」(P.82-6) を参照）。更新するボイスメール ポートをクリックし、「ステップ 3」に進みます。

ステップ 3 適切な設定値を入力します（表 82-1 を参照）。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

既存の Cisco ボイスメール ポートの基本設定をコピーして、別の Cisco ボイスメール ポートに適用する場合は、[ポート名 (Port Name)] フィールドと [電話番号 (Directory Number)] フィールドを変更する必要があります。

追加情報

「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化

デバイスと設定を変更したボイスメール ポートを同期させる手順は、次のとおりです。この手順によって、中断を最小限に抑えた方法で未処理の設定が適用されます（たとえば、影響を受けるデバイスの一部は、リセットまたはリスタートが不要場合があります）。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- [ボイスメール ポートの検索と一覧表示 (Find and List Voice Mail Ports)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 使用する検索条件を選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致するボイスメール ポートがウィンドウに表示されます。
- ステップ 4** 影響を受けるデバイスと同期させるボイスメール ポートの横にあるチェックボックスをオンにします。ウィンドウ内のボイスメール ポートをすべて選択するには、検索結果表示のタイトルバーにあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [選択項目への設定の適用 (Apply Config to Selected)] をクリックします。
- [設定情報の適用 (Apply Configuration Information)] ダイアログが表示されます。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

Cisco ボイスメール ポートの削除

Cisco Unified Communications Manager から Cisco ボイスメール ポートを 1 つ削除する手順は、次のとおりです。

始める前に

電話番号が使用している Cisco ボイスメール ポートを削除すると、番号は Cisco Unified Communications Manager データベース内に残ります。ボイスメール ポートを使用している電話番号を特定するには、[ボイスメールポートの設定 (Voice Mail Port Configuration)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [依存関係レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。依存関係レコードがシステムで使用可能になっていない場合、[依存関係レコード要約 (Dependency Records Summary)] ウィンドウにメッセージが表示されます。依存関係レコードの詳細については、「[依存関係レコードへのアクセス](#)」(P.A-2) を参照してください。

使用されているボイスメール ポートを削除しようとする、Cisco Unified Communications Manager はメッセージを表示します。現在使用されているボイスメール ポートを削除する前に、削除するボイスメール ポートを使用している電話番号すべてに別のボイスメール ポートを割り当ててください。「[電話番号の設定](#)」(P.61-26) を参照してください。

ボイスメール ポートを削除した後で、そのボイスメール ポートを使用していた電話番号を削除できます。「[割り当てられていない電話番号の削除](#)」(P.64-3) を参照してください。



ヒント

既存のサーバからポートを削除するには、この項で説明されている手順の代わりに、Cisco ボイスメール ポート ウィザードを使用することもできます。詳細については、「[Cisco ボイスメール ポート ウィザード](#)」(P.83-1) を参照してください。

手順

- ステップ 1** [拡張機能 (Advanced Features)] > [ボイスメール (Voice Mail)] > [Cisco ボイスメールポート (Cisco Voice Mail Port)] の順に選択します。
- ステップ 2** 「[Cisco ボイスメール ポートの検索](#)」(P.82-6) の手順を使用して、Cisco ボイスメール ポートを検索します。
- ステップ 3** 削除する Cisco ボイスメール ポートをクリックします。
- ステップ 4** [削除 (Delete)] をクリックします。

追加情報

「関連項目」(P.82-10) を参照してください。

関連項目

- 「Cisco ボイスメール ポートの設定値」 (P.82-1)
- 「Cisco ボイスメール ポートの検索」 (P.82-6)
- 「Cisco ボイスメール ポートの設定」 (P.82-7)
- 「Cisco ボイスメール ポートと影響を受けるデバイスとの同期化」 (P.82-8)
- 「Cisco ボイスメール ポートの削除」 (P.82-9)
- 「Cisco ボイスメール ポート ウィザード」 (P.83-1)
- 『Cisco Unified Communications Manager システム ガイド』の「Cisco Unity と Cisco Unity Connection の設定チェックリスト」